

病害虫防除技術情報第16号

平成30年3月22日

三重県病害虫防除所

県内の圃場で捕獲されたチャノコカクモンハマキにジアミド剤(虫28)やジアシルヒドラジン系IGR剤(虫18)に対する感受性低下が確認されました。薬剤抵抗性の発達を避けるため、適切な使用を心掛けましょう。

1. 対象作物： チャ
2. 対象病害虫名： チャノコカクモンハマキ
3. 薬剤抵抗性の状況
 - 1)三重県農業研究所では、2016年、2017年に県内茶産地（四日市市、鈴鹿市、亀山市、松阪市、度会町）で採取したチャノコカクモンハマキについて、薬剤感受性検定を行ったところ、一部のジアミド剤（虫28）やジアシルヒドラジン系IGR剤（虫18）に対する感受性低下を確認しました。
 - 2)北勢地域ではクロラントラニプロール剤（虫28）及びテブフェノジド剤（虫18）の感受性低下が確認され、その他感受性低下の兆候を示す薬剤がありました。
 - 3)中南勢地域では北勢地域の個体群に比べて抵抗性の発達程度は低いですが、一部のジアミド剤（虫28）やジアシルヒドラジン系IGR剤（虫18）に対して感受性低下の兆候を示しました。

表 チャノコカクモンハマキ2～3齢幼虫に対する、殺虫剤処理10日後の補正死亡率¹⁾（三重県農業研究所 2017年調査）

商品名 剤型称略	(有効成分名)	IRACコード ²⁾	希釈倍数 (倍)	補正死亡率(%)				
				四日市市	鈴鹿市	亀山市	松阪市	度会町
サムコル	(クロラントラニプロール)	28	2000	59.5	64.9	63.9	89.7	94.3
フェニックス	(フルベンジアミド)	28	2000	100.0	97.9	94.6	100.0	97.4
エクシレル	(シアントラニプロール)	28	2000	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ロムダン	(テブフェノジド)	18	1000	17.9	55.0	41.7	100.0	94.3

1)検定方法は、薬剤無散布圃から採取した成葉を用いたチャ葉浸漬法(小杉1998)にて実施。

2)殺虫剤抵抗性管理委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。

4. 薬剤抵抗性チャノコカクモンハマキの防除対策
 - 1)直接または間接での暴露による、抵抗性の発達を避けるため、ジアミド剤（虫28）、ジアシルヒドラジン系IGR剤（虫18）の使用は、年1回までとして、高い効果を持続させるよう努めましょう。
 - 2)殺虫効果の高い発生初期に散布し、多発時の使用を避けましょう。また、適用範囲内で最大濃度、最大量を散布するよう努めましょう。
 - 3)以上の取り組みを地域一体となって実施しましょう。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。